

燃料高騰への農業対策を要望

8/27

農業委員会が要望書提出

村農業委員会の北原経会長と菅野宗夫会長職務代理者が、村と村議会へそれぞれ「原油価格高騰対策に関する要望書」を提出しました。

原油・肥料等の価格高騰による、次期作の栽培への影響、農業に対する不安が深刻化していることや地域農業者からの声を踏まえ、農業経営安定



▲菅野村長へ要望書を提出する北原経会長（中央）、菅野宗夫会長職務代理者（右）



▲議会へ要望書を提出するようす（写真左から佐藤長平副議長、北原昇議長、北原経会長、菅野宗夫会長職務代理者）

につながる取組みとして、「燃料や飼料、肥料等の生産資材等の価格の動向を見据え、経営実態に応じた補助等の幅広い対策を図ること」「燃油高騰に伴う生産コストの上昇分が、販売価格に適切に反映されること」「再生産可能な販売価格の実現に向けた取組みを強化するよう国や県に働きかけること」などを要望しました。

子どもは「たからもの」



「合計特殊出生率」という言葉があります。

これは「一人の女性が、一生の間に生む子どもの数」を表す言葉で、今、日本の平均は1.34人、福島県の平均が1.49人となっています。

戦後の頃は、4.54人だったものが、年々少なくなつて現在の数値になってしまいました。

一人の女性が、1.3人なり1.5人産むのだからいたしたものではないかと思われがちですが、そうはいきません。

子どもを産むということは、一般的に夫婦で育む話ですから、言いかえれば、「合計特殊出生率」は、男女2人で産む数といつてもいいと思います。2人で「1人とちょっと」ということになる、人口はどんどん減り、出生率が2.01程度にならないと人口は

保てない計算です。今、この人口減が、日本社会の経済から年金の問題まですべて影響し、「少子化対策」「子育て支援」と騒いでいるところなのです。

飯館村も同じです。村の出生率は、最新の数値で1.77人（平成18年）です。しかし、出生表（※）でもお分かりのとおり、村は、平成17年までは2人以上の数値で、県内はもとより全国でも上位の出生率を誇っていました。飯館村の女性に頑張ってもらっているのですね。

ではなぜ、平成18年は下がったのでしょうか。それは、生まれる子どもが44人と少なくなったからです。

そう考えると、村の将来のために、少しでも多く村内で子どもが誕生していたかなければいけません。村にとって、子どもは宝物です。

今、村では「子どもは宝もの」を表す写真と、川柳の募集を9月20日まで行っています。

まだ、遅くはありません。奮って応募していただいて、子育て支援の環境を一緒に作っていきましょう。

平成20年8月29日

飯館村長 菅野 典雄

（※）出生表

	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
村の出生数	59人	56人	54人	74人	76人	56人	56人	44人	50人
村の合計特殊出生率	2.19	2.16	2.37	2.97	2.92	2.13	2.25	1.77	

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場総務課 TEL42-1613



ジュニアリーダーによるお話会

8/23

ジュニアリーダー9人（小学生7人・中学生2人）によるお話会が「ビレッジハウス」で行われ、絵本、大型紙芝居での読み聞かせや風船アートで動物をつくるなど、参加者らは笑顔で楽しんでいました。



▲読み聞かせの様子



▲読み聞かせや風船アートを楽しんだ参加者ら

小型操法の部で3位

8/3

第36回福島県消防操法相馬地方大会



▲競技のようす（小型ポンプ操法の部）

南相馬市鹿島区の千倉グラウンドにおいて「第36回福島県消防操法相馬地方大会」が開催され、第2分団第1部（前田・八和木）、第2分団機動部（飯館町）の2チームが出場しました。猛暑の中、両チームともそれぞれ健闘を見せ、第2分団機動部が、小型ポンプ操法の部で3位の成績を収めました。

「こま」で子ども達が交流

8/1 飯館町老人会・たんぼぼハウス
8/22 草野七福老人会・つくしんぼハウス



▲「こまはこうやって回すんだよ」（つくしんぼハウス）

高齢者ふれあい交流事業として飯館町老人会とたんぼぼハウス、草野七福老人会とつくしんぼハウスの子ども達が、それぞれスカットボールなどのニュースポーツや昔ながらのお手玉、こま、将棋などを通して交流をしました。

子ども達は、こま回しやお手玉に歓声をあげながら夢中になっていました。この交流事業は冬休みにも実施する予定です。



▲将棋で交流するようす（たんぼぼハウス）



▲スカットボールを楽しむ子どもたち（つくしんぼハウス）



誕生おめでとう

赤ちゃんのなまえ	親の氏名	行政区
高橋 慶人くん	剛・裕美	深谷
西内 蓮くん	忍・里美	大久保・外内
野崎 薫くん	健・奈都子	前田
小林 瑞季ちゃん	幸一・文枝	前田・八和木
松林 亮汰くん	昌良・リカ	大久保・外内

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	行政区
三浦 敏博	深谷
佐藤 美穂	関根・松塚

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
嶋原 力ネ	86	伊丹沢(長泥)
齋藤 由美子	49	福島市
菅野 忠雄	54	草野
菅野 明夫	87	比曽
阿部 ミヨシ	57	小宮
佐藤 吉英	95	須根
菅野 彦治	53	関根・松塚
	87	小宮
	73	宮泥

ご冥福をお祈り申し上げます

(7月21日から8月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

(平成20年8月1日現在)

人口	今月 (前月比)	去年同期
男	3142人 (-1人)	3213人
女	3161人 (-10人)	3256人
計	6303人 (-11人)	6469人
世帯数	1698戸 (+1戸)	1733戸

◆◆◆7月1日～31までの人口動態◆◆◆			
転入	9人	転出	12人
出生	2人	死亡	10人

(平成17年国勢調査に基づき増減された現住人口)

自分の星を見つけよう



▲望遠鏡で星空を楽しむ参加者

村教育委員会と「いたてまでい情報・交流実行委員会」の共催により、相双教育事務所域内を対象とした、相双ネットワーク創造プラン市町村広域連携講座「第1回親子星空観察会」が、村民の森「あいの沢」で開催され、村内外から43人が参加しました。

福島天文同好会事務局長の佐藤光さん(福島市)と会員の佐藤敏克さん(福島市)が講師を務めました。この日は、多少雲はあったものの、次第に美しい星空が広がり、参加者らは望遠鏡を使って、木星や星座を観察したり、芝生に寝転がって村の夜空に輝く星を眺め楽しんでいました。

平成20年度 コミュニティ助成事業

今年の飯樋盆踊り大会に使われたテントや机、イス等は平成20年度宝くじ助成事業により新たに整備されたものです。



8/13 第8回草野地区納涼まつり

草野地区の納涼まつりが草野公園で行われ、地元住民や来場者がやぐらを囲んで踊りの輪をつくり、子ども囃子や大人囃子で賑わいました。また会場には、老人会、婦人会、子ども会育成会、有志などによる模擬店が並び、手づくりポテトや焼きそば、チョコバナナなどを買い求める人たちの長い列ができ、地域の交流を楽しんでいました。



▲やぐらを囲んでの盆踊り



▲浴衣姿の参加者が盆踊りに参加



▲模擬店も大にぎわい



▲仮装部門優勝の「妖怪」のみなさん

8/15 第18回飯樋盆踊り大会
飯樋4地区で組織する、飯樋盆踊り大会実行委員会(三瓶政美実行委員長)主催の「第18回飯樋盆踊り大会」が、村民グラウンドで開催され、多くの参加者や帰省客らなどで賑わいました。仮装部門では、それぞれ趣向を凝らした衣装や子どもたちの可愛らしい仮装が観客たちの目を引いていました。また、8月に着任した英語指導助手のマリさんも浴衣を着て大会に参加し、日本の夏の風物詩を楽しんでいました。



▲マリさんも盆踊りに参加